

① 頭髪が白くなつたからとて（長老）なのではない。ただ年をとつただけならば「空しく老いばれた人」と言われる。（法句經二六〇）

〈『真理のことは・感興のことは』中村 元訳 岩波文庫 四六頁〉

② 頭を剃つたからとて、いましめをまもらず、偽りを語る人は、（道の人）ではない。欲望と貪りウヤウヤにみちている人が、どうして（道の人）であろうか？（法句經二六四）

〈『全』四七頁〉

③ 誠あり、徳あり、慈しみがあつて、傷そこなわず、つつしみあり、みずからととのえ、汚れを除き、氣をつけている人こそ「長老」と呼ばれる。（法句經二六一）

〈『全』四六頁〉

④ 怠りなまけて、氣力もなく百年生きるよりは、堅固にとめ励んで一日生きるほうがすぐれている。（法句經一一二）

〈『全』二六頁〉

『老人六歌仙』仙崖権（寛延三年一七五〇）天保八年一八三七）

（原文ママ）「原文ナシ

し（志）わ（王）が（か）よる（流）ほ（本）くろ（黒）が（か）出ける腰曲る 頭まが（か）は（者）げ（け）るひげ（け）は（者）白くなる（流）

手は（ハ）振（ふ）う足（あし）は（ハ）よろつ（川）く（具）齒（は）（者）抜（け）る 耳は（者）きこえ（へ）ず（春）目は（ハ）う（宇）とく（具）なる

身（に）添（は）（者）頭巾 襟卷 杖 目鏡

たんぼ（本） おんし（志）やく し（志）ゆび（ひ）ん 孫の手

聞「き」たが（か）る死と（ハ）むなが（か）る淋しが（か）る 心ハ曲「が」る欲深になる

くど（と）く（具）なる氣短に（ニ）なる愚痴になる 出志やば（者）りたが（か）る世話やきたが（か）る

又しても同じし（咄）に子を誉「め」る 達者自慢（まん）に（ニ）人は（者）いやが（か）る

古人の歌

仙崖